

NPhA

隔月刊誌
[エヌファ]

Exclusive Interview

特別対談



鴨下一郎氏

藤井江美氏

内閣官房参与
鴨下一郎氏

一般社団法人日本保険薬局協会副会長
藤井江美氏

医療保険制度維持のため
長期収載品の
スイッチ化は不可避
薬局はスイッチOTC供給体制強化し
国民の利便性向上に貢献を

Visiting

[訪問シリーズ] 専門医療機関連携薬局・地域連携薬局

がん患者に受診 2~3日前に架電、
「診察前電話面談」を実施

ナカジマ薬局 砂川店 (北海道砂川市)

Round Table Discussion

[座談会] マイナ保険証の普及に向けて

利用率の向上は丁寧な対応と
地道な声かけに尽きる

株式会社ピノキオ薬局
(栃木県)

代表取締役社長
田中友和氏

厚生労働省
保険局医療介護連携政策課
保険データ企画室長
河合篤史氏

株式会社トモズ
(東京都)
取締役 薬剤部分掌
町田剛氏



田中友和氏

河合篤史氏

町田剛氏

4 Exclusive Interview



医療保険制度維持のため 長期収載品のスイッチ化は不可避

内閣官房参与 鴨下 一郎氏 一般社団法人 日本保険薬局協会 副会長 藤井 江美氏

9 Round Table Discussion

座談会 マイナ保険証の普及に向けて

利用率の向上は丁寧な対応と地道な声かけに尽きる

厚生労働省 保険局医療介護連携政策課 株式会社ピノキオ薬局 (栃木県) 株式会社トモズ (東京都)
保険データ企画室長 河合 篤史氏 代表取締役社長 田中 友和氏 取締役 薬剤部分掌 町田 剛氏

16 Visiting

訪問シリーズ「専門医療機関連携薬局・地域連携薬局」ナカジマ薬局 砂川店 (北海道)

がん患者に受診2~3日前に架電、「診察前電話面談」を実施

株式会社ナカジマ薬局 執行役員 薬局本部 本部長 薬局事業部 部長代理 砂川店 店長
谷口 亮央氏 染谷 光洋氏 佐藤 翼氏

14 Announcement

11月2・3日に開催される第18回日本薬局学会学術総会 見どころ・聴きどころ
DXで変貌する今後の薬局像を探る



協会ロゴマークの由来

協会ロゴマークは、私たちの仕事である調剤業務に古くより使用されている重要な器具・薬匙 (スパーテル) を基本にあしらい、さらに日本保険薬局協会の英名 Nippon Pharmacy Association の略である NPhA を薬匙の上に広げて重ね、空を翔ける鳥のようにイメージしました。今後、日本保険薬局協会が大きく羽ばたき成長するよう、希望を込めて作成されています。

好評連載

- 19 Partnership
薬剤師との連携を目指して
さんあい薬局株式会社 桑名薬局 (三重県) 高原 行幸氏
- 20 Workshop
NPhA ワークショップ 開催レポート
- 22 Committee
NPhA 委員会 Act 研修企画委員会 原 正朝委員長に活動内容を聞く
- 24 Beyond The Sea
米国&英国からのレポート「薬局の未来像」
アメリカ 注射薬の提供を視野に健康サービスを更に拡大 大野 真理子氏
イギリス 2026年から薬剤師が処方権持つため「簡易医療クリニック」へ変貌 國分 麻衣子氏
- 28 At The Top
地域のトップランナー いまいメディカルグループ (宮城県)
- 30 Diary
薬局管理栄養士ダイアリー
株式会社新生堂薬局 下曽根店 (福岡県)
ファーマシー事業部 店舗運営1課主任/管理栄養士 森崎 真衣氏
- 32 NPhA 新会員紹介
- 33 ファーマシーセミナーオンライン研修 開催案内/認知症研修認定薬剤師制度 研修会・認定試験スケジュール
- 34 編集後記

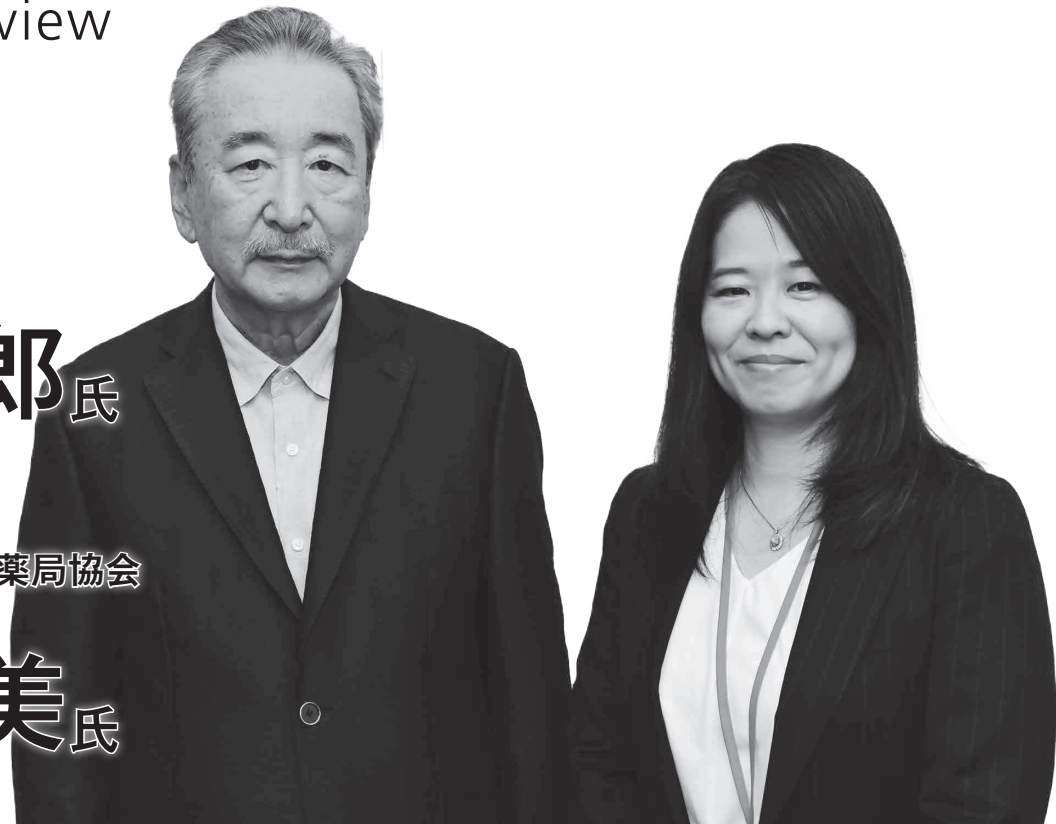
特別対談

内閣官房参与

鴨下 一郎氏

一般社団法人 日本保険薬局協会
副会長

藤井 江美氏



鴨下一郎氏（左）と藤井江美氏

医療保険制度維持のため 長期収載品の スイッチ化は不可避

薬局はスイッチOTC供給体制強化し 国民の利便性向上に貢献を

環境大臣や厚生労働副大臣を歴任した鴨下一郎氏は現在、健康・医療戦略担当の内閣官房参与として岸田政権を支えています。政府が主催する「創薬力の向上により国民に最新の医薬品を迅速に届けるための構想会議」の座長代理を務める同氏は、最新の医薬品を国

民に迅速に提供するため、長期収載品をOTCにスイッチしていく必要性を力説します。薬局もスイッチOTCの増加を見据え、調剤だけに偏ることなくOTC供給体制の強化が欠かせないと強調しました。

(2024年7月17日収録)

新型コロナは 受診・診療の在り方を変えた

藤井 衆議院議員を長く務められた後、2021年に政界を引退されました。

鴨下 私は心療内科医だったので、志があったものですから、44歳の時に地元の東京都足立区から衆議院議員選挙に立候補しました。それから28年間、当選を9回重ね、71歳で引退しました。かねがね、70歳を迎えたら次の選挙には出ないことを決めていましたので、私としては計画通りの引退でした。政治家は、災害とかパンデミックなど一朝有事の際には国民を守らなければなりませんので、先頭に立つ覚悟と体力が不可欠です。70歳を過ぎても、2日間とか3日間ならば徹夜できますが、3カ月、半年間も寝ずに頑張れるかという、それは難しい。気力・体力には全盛期があるのです。医者ですから人間の身体のこと分かってます。

藤井 新型コロナのパンデミックにも、政治家として対峙されました。

鴨下 新型コロナ対策は、引退直前の大仕事でした。自民党の「新型コロナウイルスに関するワクチン対策プロジェクトチーム」の座長を仰せつかったからです。厚生労働省は集団接種で乗り切ろうとしたのですが、どんなに頑張っても1日30万人しか打てない。「これでは間に合わない」と危機感を持った自民党が、プロジェクトチームを立ち上げ、ワクチン接種のスピードを上げる検討に入りました。その結果、集団接種だけでなく個別接種、職域接

種など接種ルートの多様化を進めるべきとの提言書を、2021年2月に菅義偉総理に提出しました。提言書の作成が、私の政治家としての最後の仕事になりました。

藤井 国民はパンデミックから何を学んだと思われますか。

鴨下 多くの国民が外出しなくなり、医療の受け方も変わりました。医療機関に行くと感染する恐れがあるということで、受診を控えるようになりましたが、結果として、それが従来の受診の在り方を変えるキッカケになりました。国民が一度立ち止まって、医療の受け方を考え直す機会になったと思います。もう一つ、忘れてならないのが、新型コロナによって医療提供体制が多様化したことです。オンラインでも医療が提供できることを証明しました。しかも、厚労省は初診にもオンライン診療を開放した上、距離規制も撤廃し新しい医療のスタイルを作った。確かに、いずれもパンデミックという厳しい状況における苦肉の策だったのですが、新しい受診の在り方、新しい診療の在り方をもたらしたと受け止めています。

記憶に残る 「社会保障と税の一体改革」

藤井 28年間の中で、特に印象に残るお仕事をお聞かせください。

鴨下 幾つかありますが、中でも「社会保障と税の一体改革」の記憶

が強く残っています。シンプルに言えば、社会保障給付のために消費税を5%から10%に上げるというものでした。社会保障には莫大な財源が必要ですから、自民党としては国民に薄く広く税を負担していただくことが良いと考えていました。当時、野田佳彦首相も同じお考えだったのですから、われわれも協力することにしまして、自民党の実務者代表



鴨下一郎氏

として私が議論に参加しました。実務者レベルで話がまとまりませんと、「社会保障と税の一体改革」は空中分解してしまいますので、マスコミからも大いに注目されていました。ただ、マスコミを含めて世間の大方は「まとまらないだろう」と懐疑的でしたし、格付け機関も国債の格下げを手ぐすねを引いて準備していました。ところが、なんとか各党の合意が取り付けられた。後に厚労大臣に就任する加藤勝信さんからは、「実務者代表が鴨下さんでなかったらまとまらなかった」と言われました。国民の多くにお役に立てたと思えるのが、この「社会保障と税の一体改革」でしたね。

座談会

マイナ保険証の普及に向けて

利用率の向上は丁寧な対応と地道な声かけに尽きる

マイナ保険証を含め医療DX推進で「目指す未来」へと近づく

医療DXの推進が強く求められるなか、2024年度診療報酬改定においても、さまざまな形で推進策が盛り込まれました。日本保険薬局協会（NPhA）では既に昨年秋には「マイナンバーカードをお持ちですか？」キャンペーンを展開し、今夏には第2弾「マイナ保険証利活用に係る好事例」を公表するなど、その普及・定着を積極的に進めています。ただ、全体として一部

課題も指摘されており、普及に向けてはもう一段の努力が必要とされています。そこで改めて厚労省担当官を囲み、マイナ保険証を中心に医療DXの意義と取組状況、行政側のNPhA等への期待などを聞きました。併せて、薬局の立場から、啓発活動や情報等の利活用の状況、行政側への期待などを語っていただきました。

(2024年7月30日収録)

出席者 (発言順)

厚生労働省
保険局医療介護連携政策課
保険データ企画室長

河合 篤史氏

Atsushi Kawai

株式会社ピノキオ薬局（栃木県）
代表取締役社長

田中 友和氏

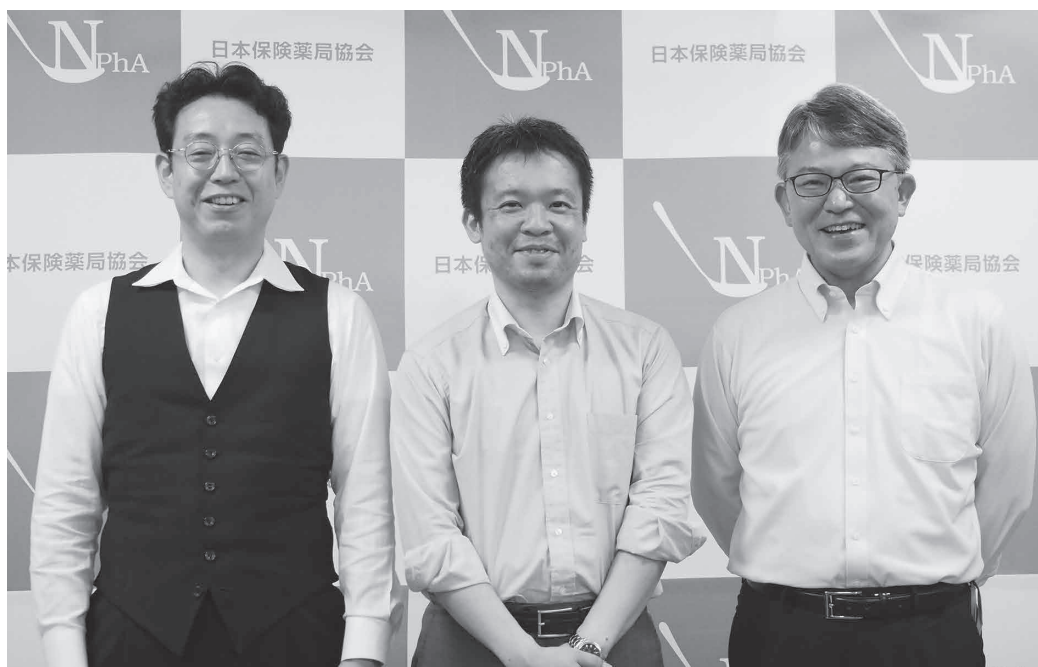
Tomokazu Tanaka

株式会社トモズ（東京都）
取締役 薬剤部分掌

町田 剛氏

Tsuyosi Machida

左から田中氏、河合氏、町田氏



最大のメリットは「受診履歴」に基づく質の高い医療提供

——最初に医療政策におけるマイナ保険証の位置づけと意義について、河合さんからご紹介いただけますか。

河合 現行の健康保険証は国民皆保険制度のシンボルとして活用されてきました。人生100年時代が到来するなかで、これからは生活習慣病等と長く付き合いながら、より良い生活をしていくことが重要と考えています。このため、国民一人ひとりがご自身の健康状態を把握し、行動変容を促すことができるような情報提供が求められます。このような観点から、マイナ保険証の活用を通じた日本の医療DXを確実に進めることが必要です。



河合篤史氏

患者さんにとってマイナ保険証の一番のメリットは、ご本人の受診履歴に基づく質の高い医療を受けることができることにあります。お薬手帳があってもマイナ保険証により、薬剤服用履歴を正確かつ網羅的に説明する手間を省き、過去の健康医療データに基づき、より適切な医療を受けることにつながります。また、重複投与、併用禁忌の防止などが非常に大きなメリットになります。限度額認定証等がなくても、高額療養費制度の限度額を超える支払いが確実に免除されることも大きなメリットです。

一方、医療提供者側には効率的な医療システムの実現も一つのキーワードになると考えています。問診票等で聞き取っていただくより、正確かつ効率的に過去の薬剤情報、特定健診の情報を確認できるようになります。より正確な情報に基づいて適切な医療を提供で

きることは、医療提供者側にとっても大きなメリットになります。従来、手作業による事務負担や誤記載、なりすまし受診などのリスクもありましたが、マイナンバーカード（マイナカード）で顔認証など確実な本人確認と資格確認が同時に行え、さらに確認事務等の減少やレセプト返戻の回避にもつながります。

——マイナ保険証の普及状況の推移とNPhAを含め関係団体への期待についてうかがえますか。

河合 マイナ保険証の利用状況は6月のデータで過去最高の1,874万件、5月と比べて約450万件の増加です。マイナ保険証の利用率は9.90%で上昇傾向は続いています。さらなる底上げが必要です。施設類型別には病院、医科診療所、歯科診療所、薬局ともに利用率は上昇傾向にあり、なかでも受診回数が最も多い薬局での伸びが顕著となっています。

これまでの経緯を少し振り返りますと、昨年9月に厚労省と薬系3団体との意見交換会を開催し、10月には厚労大臣と医療関連8団体とが話し合いの場を持ち、医療業界全体で、「マイナ保険証、1度使ってみませんか」キャンペーンを展開いただきました。NPhAでは早速、昨年10月から「マイナンバーカードをお持ちですか？」キャンペーンを展開いただき、本年4月からは第2弾として、実際にマイナ保険証利用率の高い薬局が行っている啓発活動や、マイナ保険証利用促進の効果的なアクションをご紹介いただきました。

こうした取り組みを地道に続けていただくことで、マイナ保険証を活用し、目指す未来へと少しずつ近づいていくものと感じています。実際に患者さんに利用を促せるのは、日々現場で業務に従事し、患者さんから信頼されている医療関係者の皆さんだと思います。NPhA等の関係団体の皆さまには、今後も引き続き周知にご協力をいただき、患者さん、そして国民全体のメリットにつなげていただければと願っています。

店舗や患者特性などで異なるマイナ保険証の扱いや認識

——利用状況と認識、各社での取り組みと好事例などをご紹介いただきたいと思います。7月末までの状況について田中さんからお願いします。

田中 店舗によってマイナ保険証を使う方と使わな

第18回 日本薬局学会学術総会 **見どころ・聴きどころ**

DXで変貌する今後の薬局像を探る

「ChatGPTの医療における利活用」、「薬剤師による災害支援活動」、「LGBTQ+フレンドリーな薬局」のシンポも

第18回日本薬局学会学術総会 実行委員会

日本薬局学会学術総会が11月2日(土)・3日(日)に開催されます。本学術総会のテーマは「薬局の、底力。本質を創る今を。」です。このテーマのもと本学術総会が、私たちの業界が直面している多様な課題に対する挑戦と変革の場として、また、皆様の日々の業務に役立つ実践的な知識や技術を得られる場になることを目指しています。

今回の学術総会では、現在の薬局関係者に必要な最新の情報共有し、薬局業界のさらなる発展に寄与するため、22の企画講演プログラム(シンポジウム等)、13の共催セミナー、口頭発表、ポスターセッションなど多彩なプログラムを準備しました。

5年ぶりに口頭の一般演題発表が復活

特別講演には日本マイクロソフトの大山訓弘様をお招きし、最先端の研究成果や臨床現場での応用事例についてご講演いただきます。ChatGPTの医療における活用や、デジタルトランスフォーメーション(DX)による薬局の在り方など、医療の未来を見据え、業界の最新動向に対応するための具体的なアプローチが紹介されます。

また、シンポジウムでは、「薬剤師による災害支援活動」や「LGBTQ+フレンドリーな薬局」、「がん薬物療法における薬剤師の職能」「薬局経営と未来への挑戦」といった、これからの医療現場の課題・トピックスについて、多角的な視点から議論します。その他にも神奈川県薬剤師会との合同シンポジウムでは、薬剤師の職能を高めるプレアボイドに関する取り組みを

横浜みなとみらい21地区にある
パシフィコ横浜がメイン会場となる
(写真提供：パシフィコ横浜)



紹介します。それぞれの成功事例や課題解決の方法を共有し、参加者同士が意見交換することで、未来を切り開く議論が生まれることを期待しています。

今年度は、昨年を超える300演題以上の登録があり、ポスターセッションと50以上の口頭発表を予定しておりますので、2日間を通してさまざまな研究発表に触れることができます。発表者との交流を深めることで、ぜひ、ご自身の研究や実務に役立てていただければと思います。また、5年ぶりに口頭の一般演題発表が復活します。

オンラインでも参加できるハイブリット開催

本学術総会はパシフィコ横浜がメイン会場になりますが、多忙な業務や学業の合間に参加いただけるように、オンラインでも参加できるハイブリット開催としています。第18回日本薬局学会学術総会が、参加者全員にとって有意義な時間となり、薬局業界全体の発展に寄与することを願っています。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

がん患者に受診2～3日前に架電、「診察前電話面談」を実施

病院と同レベルの医療提供を目指し「在宅緩和ケア対応薬局」認証へ

株式会社ナカジマ薬局

執行役員
薬局本部 本部長

谷口 亮央氏

薬局事業部
部長代理

染谷 光洋氏
(空知エリア エリア長)

砂川店
店長

佐藤 翼氏
(外来がん治療専門薬剤師)



聞き手

日本保険薬局協会
専務理事

柳楽 晃洋氏

北海道を地盤に53店舗の薬局を展開するナカジマ薬局は、41年前から「テレフォン服薬サポート®」を実践してきたことで知られています。現在、同社には専門医療機関連携薬局が2店舗あり、そのうちの1店舗が砂川店です。

同店は、がん診療連携拠点病院・砂川市立病院と連携、フォローアップの同意の得られた全てのがん患者さんを対象に、「診察前電話面談」を実施しています。これは通常のフォローアップに加え、受診の2～3日前に患者さんに架電、最新の情報を病院に提供する取り組みです。今後、「在宅緩和ケア対応薬局」の認証も目指す店長・佐藤翼氏の熱い思いを聞きました。(2024年6月14日取材)

資格者を中心にWebで「がん研修」開催

——外観を拝見して気付いたのですが、ドライブスルーを設置しているんですね。

佐藤 はい。弊社ではドライブスルーを積極的に採用しており、現在、全53薬局のうち8薬局でドライブスルー窓口を開設しています。当薬局は、処方箋を1日150～180件受け付けていますが、そのうち平均30件ぐらいがドライブスルーです。昨日(6月13日)は、特に多くて48件でした。応需処方箋が200件近くあったうちの48件ですから、概ね4分の1に相当します。利用される方はお子様連れが多いです。また、この地域は豪雪地帯ですので、冬場に増える傾向があります。

——待合スペースには可愛いロボットがいますね。

谷口 これは待ち時間対策として、職員からの意見をもとに採用しました。お客様にも好評な上、薬局職員の癒しにもなっています。価格はかなり高いのですが、採用してよかったと感じています。全社で8台稼働しています。

——去年12月、専門医療機関連携薬局の認定を受けられました。経緯をお聞かせください。

佐藤 実は、私の前職が病院薬剤師でして、その時に、がん治療に関わっていました。そのため、ずっと専門資格を取りたいと考えていました。資格取得には症例を集めなければなりませんので、その過程で砂川市立病院とのコミュニケーションが深まっていきました。



谷口 亮央氏